

◇ 夏本番でエアコンの出番です ◇

エアコン稼働の我慢は命がけ

梅雨明けが例年より遅れ気味ですが、いよいよ猛暑の夏がやってきました。2007年に猛暑日という言葉が誕生し、外気温25℃以上が夏日、30℃以上が真夏日、35℃以上の場合を猛暑日と呼ぶようになりました。

今後は、40℃以上の呼び方も生まれそうな時代になりつつあります。猛暑日がさほど珍しくなくなり、熱中症による被害も軽視できなくなっています。

真夏のエアコン冷房稼働は、当たり前のことになりましたが、『もったいない』ので『我慢』するという方も多いようです。

真夏日や猛暑日に、『もったいないから我慢する』は、命がけとなります。

エアコン事情

エアコンも含め、車、船、飛行機、工場、発電所など、多くのエネルギーを必要とする機器は、その始動時（起動時）に多くのエネルギーを消費します。中でも身近な車を例に挙げると、渋滞や信号の多い道を走ると、渋滞していない高速道路を走るとでは、燃費が大幅に変わります。

エアコンも同様にオンオフを繰り返す稼働より、連続稼働の方がより光熱費を低く抑えることがわかっています。

情報番組などで30分から1時間程度のお出かけならエアコンは、稼働しっぱなしでも電気代に大きな差はなく、また帰って来た時に涼しい分、利点が多いことなどが取り上げられておりました。

以前は、こまめに電源を切る事を推奨していたエアコンが連続運転を推奨するようになりました。エアコンの性能が向上した事も理由のひとつです。

機器の性能向上が

テレビ、冷蔵庫、エアコン等の家電は、格段に省エネ性が向上しています。これは住宅の性能でもあらわれてきつつあります。

歴史を感じさせるような日本家屋であれば、隙間が多く断熱性能も低いので、エアコンの連続運転の効果は薄いかもしれません。

現在の建物は、気密断熱ともに法律改正などで飛躍的に良くなってきており、エアコンで冷やした冷気が逃げづらくなってきています。

つまり熱を蓄える器そのものがよくなりつつあります。せっかく冷たくした室内空気を、買い物等のお出かけをする際にエアコンを止め、帰ってきた時は室内空気が高温になっており、また冷やすために多くのエネルギーを消費する

事を繰り返すため、電気代が高くなってしまいます。

そのため普段はエアコンの稼働を我慢して健康を害してしまうような悪循環が生まれることがわかってきています。

断熱性能と価格

記述のように住宅の断熱気密性能の向上と、エアコン連続稼働の相性は非常に良いようです。

釣りやアウトドアが趣味の方は知っていますが、釣った魚を入れるクーラーボックスは、その価格とbox断熱の断熱性能が比例しています。

真空断熱材等を用いた高価なクーラーボックスは、価格が10万円をこえるものも珍しくありません。最近の家庭用の冷蔵庫、冷凍庫でも真空断熱とウレタン断熱材を組み合わせて使用されています。

その次のランクのものがウレタン断熱材、その次が発泡スチロールなど、次にホームセンターなどで1,000円前後で販売されているものは、ビニールの緩衝材、いわゆるプチプチの空気が入った断熱材を使用しています。

住宅断熱とエアコン省エネ

住宅の断熱も同様に気密の方法、断熱の種類と性能を知っておくと、エアコンの運転の方法も変わってきます。

家の温熱冷熱を逃がさない、また入れないとなると、その家の気密性能の仕組みや断熱材は、何を使用しているのかを理解したうえで、連続運転やその運転時間など、エアコンの使用方法を検討する事がとても大切です。

最近ではDIYなどで、室外機の見た目をよくするためお手製のカバーを作成して被せる方もいます。これは各エアコンメーカーの取説やホームページ等にも注意点で記載されており、運転効率が悪くなるため禁止事項となっています。室外機の周りに物が置かれているなども運転効率が悪くなるため、同様です。

エアコン室外機環境も重要

エアコンを稼働すると室外機から大量の風が出ますが、この風の流れを妨げると運転効率が極端に落ちてしまいます。

したがって室外機周辺の環境が悪ければ、エアコンに負荷をかけてしまい、電気料金アップや故障率を高める可能性があります。

室外機の置き場所と周辺状態は、改めて点検されることをお勧めいたします。さて、いよいよ夏本番です。熱中症による被害も年々増えてきております。

上手にエアコンを活用し、少ないエネルギーで健康に過ごす工夫を実践しましょう。
(著：東京事務所 藤原智人)

建築情報や知識は、ファース本部オフィシャルサイトで!



ファースの家

検索

